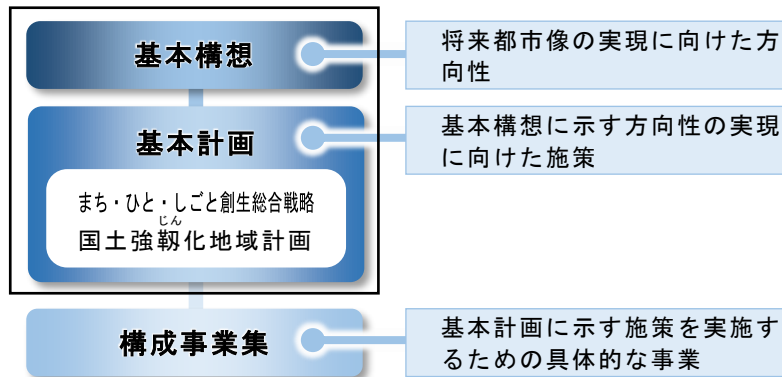


第5次呉市長期総合計画素案について

令和3年度から10年間の長期的かつ総合的な市政の計画的運営の指針となる第5次呉市長期総合計画のうち、総合計画策定の趣旨や呉市の特性、呉市を取り巻く環境などを示した「第1編 序論」と、「将来都市像」とその実現に向けた政策分野ごとの「目指すべき姿」を示した「第2編 基本構想」の素案を作成しました。

作成に当たっては、市民意見（呉市民意識調査等）の調査結果や、学識経験者等で構成する呉市総合計画審議会、市民ワークショップの開催などで得られた幅広い意見を素案へ反映させています。

【図表1-1 総合計画の構成】



【図表1-2 計画期間】

	R 3 (2021)	R 4 (2022)	R 5 (2023)	R 6 (2024)	R 7 (2025)	R 8 (2026)	R 9 (2027)	R 10 (2028)	R 11 (2029)	R 12 (2030)
基本構想	●————→									
基本計画	●————→ 前期基本計画					●————→ 後期基本計画				
まち・ひと・しごと創生総合戦略	●·····		第2期		·····●		第3期			·····●
国土強 ^{じん} 靱化地域計画	●·····		第1期		·····●		第2期			·····●
構成事業集	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●

※構成事業集は毎年度更新

【図表1-3 総合計画の目次（案）】

第1編 序論 第1章 はじめに（趣旨，役割等） 第2章 呉市の特性（自然環境，沿革） 第3章 呉市を取り巻く環境（人口動向，経済動向等） 第4章 市政運営の振返り（第4次計画期間における取組と課題）	第2編 基本構想 第1章 将来都市像 第2章 目指すべき姿（八つの政策分野） 第3章 土地利用の方針（基本的な考え方，基本方針） 第3編 前期基本計画（現在作成中）
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------

【第2編 基本構想の概要】

1 将来都市像

呉市は、緑織りなす山々と滔々と流れる川、瀬戸内の穏やかな海などの豊かな自然に囲まれています。

戦前・戦中は、戦艦大和などの艦艇を建造し、航空機を開発するなど、世界最高水準の技術と人が集まる、日本一であり世界でも有数の海軍工廠を擁するまちとして、戦後は、その基盤と技術を生かした「ものづくり」のまちとして発展してきました。また、島しょ部では、遣唐使船や北前船などによる、大陸や日本海からの交易の地として栄えた歴史を有するなど、多様性に富んだ都市です。

一方、現在の呉市は、人口減少、少子高齢化が進行する中で、情報通信を始めとする様々な技術の急速な進歩や自然災害の脅威への対応とともに、新型コロナウイルス感染症を克服し「新たな日常」を構築することが求められています。さらには、日本製鉄株式会社瀬戸内製鉄所呉地区の休止発表に伴い、今後、地域の雇用や関連企業の経営等への極めて大きな影響が見込まれ、地域経済への対応も急務となっています。

このような転換期を迎えた今、私たちは、一人ひとりが危機感を持ちながら主役となって変化する社会や課題に正面から向き合い、柔軟に対応しながら、未来のあるべき呉市をしっかりと描き、その実現に取り組んでいきます。

私たちが描く未来の呉市は、

(1) 質の高い生活が実現されるスマートシティ※¹「くれ」

市内全域に張り巡らされた高速通信網を基盤として、先端技術を活用したスマートモビリティ※²や都市データプラットフォーム※³などでスマート化されたまちが、コンパクトシティ※⁴とネットワークの核である呉駅周辺から全市域に広がる形で、Society5.0※⁵が実現しています。

そこから生まれる人と人との出会いや交流、集まる情報などから、様々な分野でイノベーション※⁶が起こり、ライフスタイルが大きく変化するなど、全国の地方都市のモデルとなり、新しい時代にふさわしい質の高い生活を楽しんでいます。

(2) 新たなチャレンジでビジネスチャンスを生み育てる「くれ」

多様な中小企業・小規模企業が自助努力と創意工夫を重ねて持続的に発展し、まちの財産となって呉市の産業を支えています。一方、Society5.0が実現している市内全域では、チャレンジ精神に富んだ女性や若者が創業や起業し、ICT※⁷等を活用した新たな事業が次々に生まれています。さらには、観光が基幹産業のひとつとなり、重厚長大な産業だけに頼らない強靱な産業構造が築かれています。ここでは、呉市が誇る歴史や、島、海、山などの自然の魅力が最大限に引き出されて、ニーズを重視した付加価値の高いサービスが提供され、市民の間には観光客の受入れ意識が醸成されることと相まって、満足度が向上した観光客が呉市を繰り返し訪れ、地域内消費の循環が向上して生業と雇用が創出されています。

(3) 都会にはない心地よい暮らしが人々を惹きつける「くれ」

呉市の島しょ部等に、都会と変わらない通信環境が整備され、テレワーク^{※8}やワーケーション^{※9}、二地域居住^{※10}などの柔軟な働き方や暮らし方が浸透するとともに、オンラインによる行政サービス・診療・学習などがICTをフルに活用して行われています。また、スマート化による新たな農水産業が形成されるなど、働き学ぶ環境と豊かな自然がもたらす心地よい暮らしは多くの人を惹きつけ、呉市が大都市圏とつながって、移り住む人が増えています。

(4) 災害に屈しない強靱なまち「くれ」

豪雨や台風、地震などの自然災害に対して、都市基盤が整備され、避難対策や市民一人ひとりの防災意識の向上を始めとして、多様な主体の協働により地域の防災力が充実するなど、災害に屈しない安全で安心なまちがつくられています。

(5) SDGs^{※11}を通して豊かな未来を創る「くれ」

市民や企業などが、持続可能な未来を示すための羅針盤としてのSDGs（持続可能な開発目標）の理解を深め、その達成に向けて行動しています。

これらの未来の呉市の姿を市民や企業などと共有し、その実現に向けた取組を進めることで、豊かで質の高い生活が実現し、若者、高齢者、女性、障害者、外国人など、全ての人々が「住みたい」「行ってみたい」と思う魅力的なまちを目指して、次のとおり将来都市像を定めます。

令和12年度（2030年度）末における呉市の都市像

誰もが住みたい、行ってみたい、
人を惹きつけるまち「くれ」

～イキイキと働き、豊かに暮らし、ワクワク生きる～

2 目指すべき姿

将来都市像の実現に向けて、呉市が取り組む政策を八つの分野に分類し、それぞれの政策分野で、令和12年度（2030年度）末までに実現する「目指すべき姿」を掲げ、取組を進めていきます。

これらの取組の推進に当たっては、海軍の発展とともに世界最高水準の人や技術が集まった歴史や文化、ものづくり技術、島、海、山などの豊かな自然やその中で育まれた地域資源を生かした産業など、呉市ならではの特性と、最先端のICT技術を融合させながら進めていきます。

・政策分野1：子育て・教育分野

～若い世代が安心して子どもを産み育て、未来を創る人材を育てるまち～

妊娠から出産・子育てまで、子ども一人ひとりの状況に応じた切れ目のない支援とともに、市民・地域・企業などが一体となって、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを進めます。

また、幼稚園や保育所、家庭や地域社会における学びを通して、就学前の子どもの健康な心と体や、未来を創り出す力、小学校につながる教育の基礎を培い、全ての子どもの健やかな育ちを支えます。

学校教育においては、呉市が全国の先陣を切って取り組んできた小中一貫教育を基盤として、子どもたちが自立した人間として主体的に判断し、多様な人々と協働しながら、自ら学び、育つことで、チャレンジ精神を持ちながら自らの意思と力で生き方を選択し、新たな価値を創造することができる人材となるための教育を実施します。

また、支援を必要とする児童・生徒はもとより、全ての子どもたちが、安全・安心に学ぶことができる教育環境を整えます。

これらにより、若い世代が安心して子どもを産み育て、未来を創る人材を育てるまちを実現します。

・政策分野2：福祉保健分野

～誰もが、住み慣れた地域で健やかに安心して暮らし続けることができるまち～

市民が主体となる健康づくりや高齢者のフレイル^{※12}予防、呉市が全国のモデルとなった、健診・医療情報等の分析により抽出された健康課題に対して、効果的な保健事業を提供するデータヘルス^{※13}などを推進していきます。あわせて、地域の医療関係者と連携して効率的な医療提供体制を確保していくことにより、市民の健康寿命の延伸を図ります。

一方で、年齢や障害の有無にかかわらず、心身の状態に応じたケアを提供し、自分らしい暮らしを送ることができるよう、全ての市民が共に支え合いながら、自らの意思で社会活動に参加できる地域づくりを進めていきます。

これらにより、誰もが生涯にわたり、住み慣れた地域で心身ともに健やかに安心して暮らし続けることができるまちを実現します。

・政策分野3：市民生活・防災分野

～多様な主体が協働し、誰もが安心して笑顔で暮らせるまち～

市民や公益活動団体、企業、地域外から様々な形で関わる「関係人口^{*14}」などの多様な人々がそれぞれの役割を分担しながら協働し、自主的で自立したまちづくりを進めます。また、性別、国籍にかかわらず、お互いの存在を理解して尊重しながら、全ての市民が安心して暮らし、活躍することができる地域社会を形成していきます。

過去の災害の教訓を継承しつつ、市民と地域や企業が一体となって防災意識を高め、地域の防災力を向上させます。さらに、地域や企業、ボランティア団体等が、それぞれの立場で防災・減災に向けた役割を担っていきます。また、迅速で的確な消防・救急体制を維持・確保していきます。

これらにより、市民を始めとする地域社会を構成する多様な主体が協働し、誰もが安心して笑顔で暮らすことができるまちを実現します。

・政策分野4：文化・スポーツ・生涯学習分野

～文化芸術やスポーツに親しみ、生涯を通じて学ぶことができるまち～

多くの市民が、音楽や美術などの文化芸術に触れる機会を創出するとともに、地域の中で育まれた文化財や伝統文化等を後世に伝えていく取組を支援することにより、魅力ある文化芸術があふれるまちづくりを進めていきます。

スポーツ分野においては、一人ひとりのニーズやライフステージに応じて、誰もが趣味や健康づくりなどの目的をもって、スポーツに親しむことができる機会を創出していきます。あわせて、全国規模の大会などで活躍することができる選手が育つ環境を整えるなど、競技スポーツの振興を進めていきます。

また、子どもから大人まで、市民一人ひとりが自らの学ぶ意欲を満たし、あらゆる機会にあらゆる場所で学び、生き生きと活動できる環境を整えていきます。

これらにより、誰もが文化芸術やスポーツに親しむことができ、また、生涯を通じて学ぶことができるまちを実現します。

・政策分野5：産業分野

～誰もがチャレンジでき、時代を先取る産業を創造できるまち～

女性や若者を始めとして、新たなチャレンジをする個人や、自助努力と創意工夫あふれる中小企業・小規模企業を、市民の理解のもとに社会全体で応援することで、夢の実現に向けて人が集まり、イキイキと働くことができる、にぎわいあふれるまちづくりを進めていきます。その中で、旧海軍工廠^{しやう}で培われた技術や誇りを基礎とする「ものづくり」の企業を始めとした中小企業等の人材の確保や研究開発、販路拡大、事業転換、事業承継などを支援していきます。あわせて、企業誘致等をさらに進め、東京一極集中の是正の受け皿として、サテライトオフィス^{※15}やテレワーク、ワーケーションなど、新たな生活様式に対応した働き方を推進することにより、都会から人を呼び込み、地域経済の持続的な発展につなげていきます。

また、日本遺産^{※16}や「世界の記憶^{※17}」に認定された多様な歴史と瀬戸内の美しい景観などの魅力を体感してもらうことなど、観光客のニーズを重視した、付加価値が高く、継続的に質が向上するサービスが提供されることで、観光客が繰り返し訪れたいくなるまちをつくっていきます。これにより、生業^{なりわい}と雇用を生み出し、観光を新たな基幹産業のひとつとしていきます。

農水産業では、国内有数の生産量を誇るレモン・牡蠣^{かき}等の農水産物のブランド化^{※18}の推進や先端技術の活用により、若い世代や移住者を呼び込むことができるような、高い付加価値を生み出す農水産業を育成していきます。

これらにより、女性や若者など、誰もがチャレンジでき、時代を先取る産業が創造できるまちを実現します。

・政策分野6：都市基盤分野

～誰もが安全・安心で快適に暮らせる持続可能なまち～

商業・医療等の施設や住宅が集積するコンパクトなまちづくりを推進し、歩いて暮らすことができる「まちなか」を形成するとともに、様々な公共空間を使って、にぎわいを創出できる環境づくりを進めていきます。

また、公共交通体系の再編を進め、持続可能な公共交通ネットワークを形成するとともに、自動運転やMaaS^{※19}などのスマートモビリティの取組を、国道、鉄道駅、港といった複数の交通モードが集積した呉駅周辺地域から市内全域に拡大していきます。あわせて、市民や高等教育機関、企業等が連携してまちづくりの課題解決に取り組む拠点を中心として、これらの主体が能動的に役割を担うまちづくりを推進することにより、世界が憧れる魅力的なまちをつくっていきます。

公共インフラにおいては、幹線道路や生活道路、港湾施設、上下水道施設等の強靱化と効率的な維持管理を進めていきます。あわせて、防災対策として、地震対策や治水・土砂災害対策、高潮対策等のハード整備に取り組みます。

これらにより、災害時でも人命が最大限保護され、社会の重要な機能が致命的な障害を受けずに維持される強靱な都市基盤を備え、誰もが安全・安心で快適に暮らすことができ、企業の立地も促進されて、将来にわたり持続可能なまちを実現します。

・政策分野7：環境分野

～豊かな環境を次の世代につなぐまち～

瀬戸内の美しい海や山に囲まれ、多様な生物が生息する自然と豊富な農水産物などを育む、健全で恵み豊かな環境を未来の子どもたちへ引き継ぐため、市民や企業が一体となって、地球温暖化の防止や生物多様性の維持、大気、水質、土壌などの地域環境の保全に取り組んでいきます。

また、廃棄物等の発生の抑制、循環資源の循環的な利用などにより、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷が低減された循環型社会の形成を企業等と一体となって進めるとともに、安定的で効率的な廃棄物処理に取り組んでいきます。

さらには、子どもも大人も学べる環境教育の実施などにより、環境問題に関心を持ち自主的に取り組む人材を育成していきます。

これらにより、呉市の豊かな環境を、次の世代につないでいくまちを実現します。

・政策分野 8：行政経営分野

～市民の視点に立った効率的な市政を運営するまち～

健全な財政運営や組織の見直し，定員の適正化，公共施設の適正配置等により，市民のニーズに的確に対応できる市政運営に取り組むとともに，市民に開かれた透明性の高い市政を実現していきます。

また，先端技術を活用したスマートシティの推進により，全ての市民がスマート化による質の高い生活を享受できるよう，その基盤となる高速通信網を市内全域に整備し，地域が抱えている課題の解決や新たな事業の創出，民間のイノベーションの誘発等を促進するとともに，行政事務のデジタル化・オンライン化を進め，行政サービスと市民生活の質の向上を図ります。

あわせて，通勤，通学，買い物など生活面で密接につながっている広島都市圏を構成する都市として，また，広島中央地域連携中枢都市圏^{※20}の中心都市として，圏域の持続的な発展や地域の活性化を進めていきます。

これらにより，多様化する市民のニーズに対し，市民の視点に立ち，効率的に市政を運営できるまちを実現します。

3 土地利用の方針

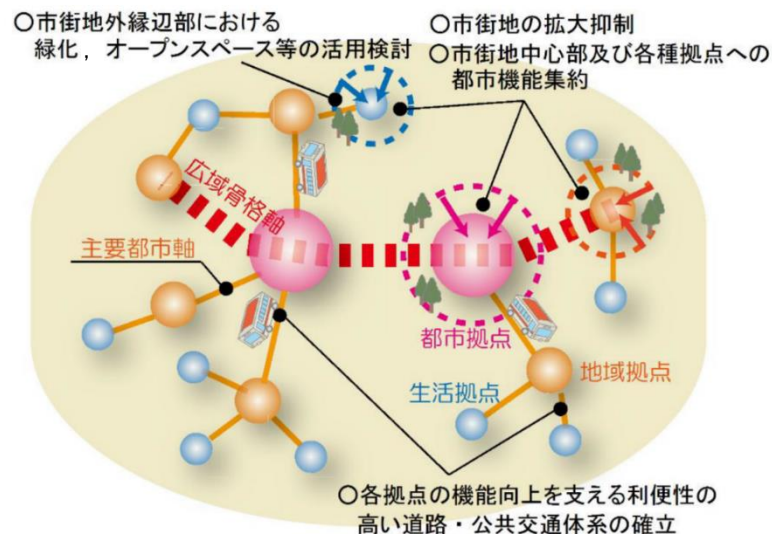
(1) 基本的な考え方

人口減少下においても、まちを持続させていくため、市内各所にいくつかの拠点を設け、各拠点にその地域の実情に応じた機能の集約を図りながら、拠点間を結ぶネットワークを整備します。これにより、それぞれが持つ機能を補完・連携させる「コンパクト+ネットワーク^{※21}」の都市構造を構築し、地域がつながり、にぎわい、住み続けられる、コンパクトで持続可能なまちを目指していきます。

(2) 基本方針

内陸部・沿岸部・島しょ部の多様な地理的条件の下で、誰もが便利で快適に暮らせるまちを実現するため、広域サービスを提供する行政施設、高次医療施設等の都市機能が集約された都市拠点と、まちの規模に応じた商業や医療・福祉等の生活サービス施設が集積した地域拠点・生活拠点を形成します。これらの各拠点間が道路・公共交通・情報通信等で連結された「コンパクト+ネットワーク」による都市構造を構築します。

【コンパクト+ネットワークを基本とする都市構造の概念図】



なお、より具体的な方針等については、呉市都市計画マスタープランにおいて示します。

4 第5次呉市長期総合計画素案に対する市民からの意見募集について

(1) 意見を募集する案件名

第5次呉市長期総合計画素案のうち「第1編 序論」及び「第2編 基本構想」部分

(2) 意見募集期間

- ・公表期間：令和2年9月18日（金）から
- ・募集期間：令和2年9月18日（金）から令和2年10月19日（月）まで（32日間）

(3) 計画案の周知方法

- ・呉市ホームページへ掲載
- ・市役所4階企画課及び1階庁舎受付案内，各市民センター（支所）窓口における配付

(4) 意見の提出

- ・意見書に必要事項（意見内容並びに住所，氏名及び電話番号）を記入の上，郵送，ファクシミリ，電子メール又は持参（企画課及び各市民センター（支所）の窓口）により提出

(5) 意見の公表場所

- ・呉市ホームページ，呉市役所4階企画課及び1階シビックモール，各市民センター（支所）窓口

<用語解説>

- ※1 スマートシティ：都市や地域が抱える様々な課題に対して，A I（人工知能）などの新技術を活用して計画，整備，管理・運営等のマネジメントが行われた持続可能な都市・地区
- ※2 スマートモビリティ：利用者がより安全で便利に利用できるよう，A Iなどの新技術を活用することにより生まれる新たな交通サービス。自動運転やデマンド交通（予約型の運行サービス）などのほか，貨客混載やM a a Sなど，様々なサービスとの連携・融合を図るサービスの総称
- ※3 都市データプラットフォーム：多様な主体の垣根を越えて，公共や民間等の様々なデータを分野横断的に連携し，新たな価値やサービスを創出するためのシステム上の共通の土台
- ※4 コンパクトシティ：公共交通にアクセスしやすい場所に，居住機能，医療・福祉等の生活サービス機能等を集積させる都市施策
- ※5 Society5.0：ソサエティ5.0。「第5期科学技術基本計画」（平成28年1月22日閣議決定）において我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱された，狩猟社会（Society1.0），農耕社会（Society2.0），工業社会（Society3.0），情報社会（Society4.0）に続く，サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより，経済発展と社会的課題の解決を両立する，人間中心の社会（Society）を指す。
- ※6 イノベーション：これまでの発想や手法にとらわれることなく，新しいアイデアで，モノや情報，仕組みなどを組み合わせることにより，新たな価値を創造していくこと。
- ※7 I C T：アイ・シー・ティー。Information & Communications Technology（情報通信技術）の略。「I T（情報技術）」がハードウェアやソフトウェア，インフラなどコンピュータ関連技術そのものを意味するのに対し，「I C T」は，通信によりコンピュータ関連技術を応用・活用することに重きを置いた語
- ※8 テレワーク：I C Tを利用し，時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方
- ※9 ワークেশョン：仕事（Work）と休暇（Vacation）を組み合わせた造語。テレワーク等を活用し，普段の職場や居住地から離れ，リゾート地などの地域で普段の仕事を継続しながら，その地域ならではの活動も行うもの
- ※10 二地域居住：都市部と地方部にふたつの拠点をもち，定期的に地方部でのんびり過ごしたり，仕事をしたりするライフスタイル
- ※11 S D G s：エス・ディー・ジーズ。Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略。2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」で記載された2030年までの国際目標
- ※12 フレイル：高齢者の筋力や活動が低下している状態

- ※13 データヘルス：健康・医療情報等を分析・活用して行う効果的かつ効率的な保健事業
- ※14 関係人口：継続的な関心や交流などを通じて、特定の地域に多様な形で関わる人
- ※15 サテライトオフィス：企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィス
- ※16 日本遺産：地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを文化庁が認定し、国内外への魅力発信や地域活性化を図ることを目的とするもの
- ※17 世界の記憶：世界的に重要な記録物への認識を高め、保存やアクセスを促進することを目的としてユネスコ（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization：国際連合教育科学文化機関）が認定するもの
- ※18 ブランド化：特定の商品やサービスを、他のものと区別し、顧客や消費者にとっての価値を高める魅力を構築すること。
- ※19 M a a S：マース。Mobility as a Serviceの略。出発地から目的地まで、利用者にとっての最適経路を提示するとともに、複数の交通手段やその他のサービスを含め、予約や決済などを一括して提供するサービス
- ※20 広島中央地域連携中枢都市圏：呉市，竹原市，東広島市，江田島市，海田町，熊野町，坂町及び大崎上島町の4市4町で形成。「住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができる地域社会の実現」を目指し，市町が連携し取組を推進している。
- ※21 コンパクト＋ネットワーク：地域の活力を維持するとともに，医療・福祉・商業等の生活機能を確保し，誰もが安心して暮らせるよう，地域公共交通と連携してコンパクトなまちづくりを進める取組